

令和 5 年度全体研修



兵庫県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

2024 (令和 6) 年

第 **21** 刊

編集発行：兵庫県立病院薬剤部長会議教育研修委員会



令和 5 年度階層別研修

Contents

Introduction	担当部長からのメッセージ	1
	令和5年度教育研修委員会の取り組み	1
Topics	播磨姫路圏域の医療を支える病院として ～兵庫県立はりま姫路総合医療センター～	2
Messages	資格取得者からのメッセージ	3
	レジデントの声	4
Activities	令和5年度 県立病院薬剤師研修報告	5
	令和5年度 県立病院相互利用	10
	書籍出版・学会発表	11
Specialist	専門・認定薬剤師等の取得状況	14

担当部長からのメッセージ

令和5年春、COVID-19が5類感染症に移行したことを受け、教育研修委員会では研修のあり方、感染対策を再検討し、参加者の協力も得て全体研修(6月)及び階層別研修(10月)を集合形式で実施しました。今年度はこの他に、コロナ禍での経験を生かして相互利用のオンライン化を試行、総合型薬剤師育成ラダーは多様化する薬剤師業務に対応した到達目標に改訂等を行い、働きながら学ぶ環境の整備に貢献できたと考えます。

教育研修委員会では、研修会の企画の他、教育研修の新たな試みや既存ツールのアップデートにより、県立病院薬剤師に必要な知識と技能を効率的、持続的に習得できる体制を整備していきます。

兵庫県立病院薬剤師部長会議 教育研修委員会
担当部長 丹波医療センター 薬剤師部長 横田 聖子
はりま姫路総合医療センター 薬剤師部長 本間 久美子

令和5年度教育研修委員会の取り組み

1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施

全職員を対象とした「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について進捗状況を確認した。

2 県立病院薬剤師研修の企画・運営

(1) 令和5年度第1回県立病院薬剤師研修(全体研修)

令和5年6月3日(土)開催(集合)同研修の企画・運営

(2) 令和5年度第2回県立病院薬剤師研修(階層別研修:4年目以降の職員)

令和5年10月28日(土)開催(集合)同研修会の企画・運営

(3) 薬剤師専門教育研修(がん・緩和領域)

令和5年11月8日(水)はりま姫路総合医療センターで開催(オンライン)同研修会の企画・運営

(4) 薬剤師専門教育研修(感染制御領域)

令和5年11月22日(水)こども病院で開催(集合)同研修会の企画・運営

(5) 令和6年度第1回県立病院薬剤師研修(全体研修)

令和6年6月8日(土)開催予定 同研修会の企画

3 県立病院の相互利用の活性化

各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを情報共有し、相互利用による研修を実施した。また各施設で実施している研修を他の県立病院で活用するため、「オンラインを活用した相互利用実施手順」を策定し、WEB配信を行った。

4 「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」(別添4-1)の改訂

薬剤師が担う業務の拡がりに対応するため、「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」(別添4-1)の改訂を行った。

5 教育研修委員会だよりの発行

トピックスとして、「はりま姫路総合医療センターについて」を掲載し、第21刊を発行した。

播磨姫路圏域の医療を支える病院として ～兵庫県立はりま姫路総合医療センター～

本間 久美子（はりま姫路総合医療センター）

はりま姫路総合医療センターは、製鉄記念広畑病院（広畑）と姫路循環器病センター（姫循）が統合し、令和4年5月に開院しました。JR 姫路駅から徒歩 15 分に位置し、院内は「歴史の街 姫路」を意識した日本の伝統色を基調とする内装や播州織の風合を生かしたオブジェを設置しています。また病室から病院北側に姫路城を眺められるなど設計・建築を工夫しており、カフェ、コンビニ、12 階外来レストラン（遠くに姫路城が見えます）および敷地内遊歩道など、市民の皆さんも利用できるよう設計されています。

薬剤部は病院棟 2 階にあり、自動錠剤ピッキング装置、自動散薬調剤機などの最新の自動調剤機器や病棟業務支援システムを導入し、より安全な調剤業務を実現すると共に、病棟業務の支援に活用しています。統合して 2 年目となり、調剤など医薬品供給・管理の面では処方監査の充実やエラーの低減、病棟薬剤業務ではきめ細やかな患者の薬物療法の支援や医師等への処方提案・情報提供を実現させる段階に入っています。また A S T、N S T、緩和ケア、糖尿病、排尿ケア、心不全などの医療チームで薬剤師が活動することにより、良質な医療の提供に貢献しています。さらに患者の入退院を支援する患者支援センターでの薬歴確認・休薬等指導業務においても重要な役割を担っています。

今後は、薬物治療における患者さんの「最善」を考えて各職員が自主的・自律的に行動するよう「はり姫らしさ」を築いていきます。



資格取得者からのメッセージ

～耐性菌の少ない世界のために～

抗菌化学療法認定薬剤師 陣田 剛志（こども病院）

抗菌化学療法認定薬剤師の申請資格について

従来、感染領域の薬剤師業務は、薬物血中濃度モニタリング（TDM）をもとに抗菌薬の投与設計を医師に助言する「支援の役割」が主でした。日本化学療法学会が認定する「抗菌化学療法認定薬剤師」は、抗菌薬のスペシャリストとして「感染症の種類や病態に応じてどの抗菌薬を選択し、どう使ったらいいのか」を実践することが求められています。認定申請は、書類審査として①薬剤師として抗菌化学療法 5 年以上の経験、②薬剤管理指導・TDM・医薬品情報などの業務を通じて感染症患者の治療に介入した 15 症例、③学会の規定する研修単位数取得となっています。書類審査が合格すると、認定試験の受験資格を得ることができます。

抗菌化学療法認定薬剤師を目指したきっかけ

新人の頃に感染制御チーム（ICT）に入り（後に抗菌薬適正使用支援チームへ分化）、業務を経験するなか

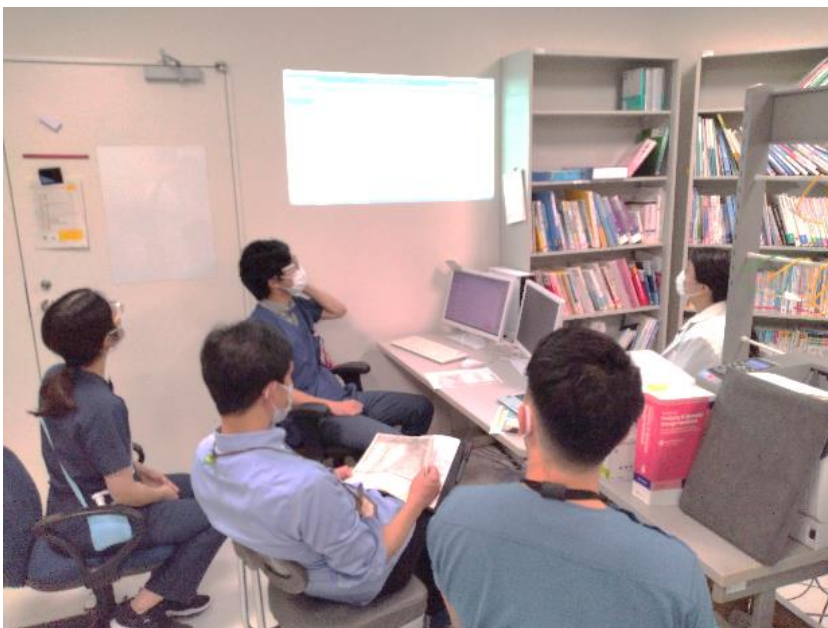
で感染症診療に興味を持ち、医師に対して自信を持って提案するためにも深い知識が必要と感じ、認定薬剤師取得を目指しました。

資格を取得してからの活動について

資格取得後に転勤し勤務しているこども病院では、週 1 回感染症内科医師を交えたカンファレンスを行っています。耐性菌が懸念される抗菌薬使用患者などについて薬剤師がプレゼンテーションし、介入すべきことがあれば主治医へ薬剤師から直接提案しています。

近年医薬品供給不足に伴い、第一選択とされる抗菌薬が使用できない場合の代替薬検討については、認定薬剤師だからこそ活躍出来る場面と考えています。

あなたも医師に対し、抗菌薬選択から用量、投与期間など感染症治療の投与設計ができる薬剤師を目指してみませんか？



Messages

～レジデントの声～

レジデント（2年目） 手操 里奈（はりま姫路総合医療センター）

兵庫県立はりま姫路総合医療センター薬剤師レジデント2年目の手操里奈です。

今回は当院でのレジデント制度の魅力についてお話ししたいと思います。

まず、レジデントの魅力の一つとして病院薬剤師としての業務を早期から経験・勉強できるという点です。調剤業務に加え、抗がん剤調製や病棟業務、様々なチーム医療の見学・参画などを経験することが出来ます。1年目の夏頃からは病棟業務も担当し、2か月ごとにローテーションするため、様々な診療科の勉強をすることが出来ます。また、抗がん剤や麻薬、抗菌薬などの薬剤に関することや業務を行っていく上で必要な講義なども薬剤師の先生方から受けられるため、知識

の再確認や新たな知識の習得にも繋がります。

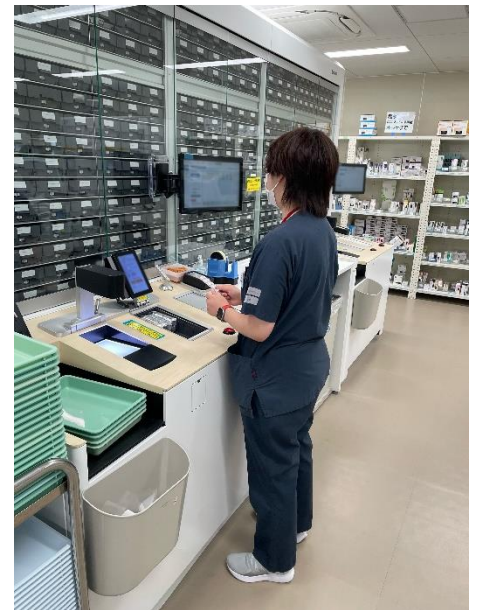
2年目では実際に希望する病棟やチーム医療に配属されるため、自分が関心をもった分野の勉強をより深めることが出来るという点も大きな魅力の一つだと思います。

このようにレジデントでは2年の間に病院薬剤師としての必要な業務やスキルを身に付けることができ、また学会に参加し、発表したりと多くの経験を得ることが出来ます。

薬剤師として反省することも多い毎日ですがその分、多くの学びを得られていると実感する毎日なので今後も医療人として成長できるよう努めていきたいと思っています。



筆者：写真中央



受入実績

（令和5年9月現在）

令和5年度受入人数：13名（1年目6名、2年目7名）

令和4年度レジデントのうち兵庫県職員合格者：2名

レジデント受入年次推移 令和元年度：19名 令和2年度：19名 令和3年度12名 令和4年度13名

全体研修（全職員対象）

令和5年6月3日 神戸学院大学（参加 179名）

1. 県立病院の役割と病院薬剤師に望むこと

病院事業管理者／杉村 和朗

今後の医療を進める上で、薬剤師に求められるスキルは極めて高度である。また、対人業務の充実が必須であり、それ以外の業務の効率化が不可欠である。

病院薬剤師は医師に適確な意見を述べて、患者に寄り添う重要な役割を担っており、その高度な知識・臨床能力が必要とされる認定薬剤師の育成が必須である。しかし、認定や資格取得を目指す若手職員の退職率が高い状況である。その原因の一つとして挙げられるのが、保険薬局薬剤師との給与水準の差であり、この問題を解決することが病院薬剤師不足の改善につながる。

一方、保険薬局薬剤師に求められる役割も拡大しており、機能に応じた知事認定制度が新たに設けられた。地域包括ケアの一員として地域の医療に貢献する薬局や、がんなどのより高度な薬学管理や、高い専門性が求められる特殊な調剤に対応できる薬局など、保険薬局においても調剤中心から対人業務中心の専門性の高いスキルが求められるようになっている。

病院薬剤師には、医療の経験と高いレベルの知識を活かし、これらの認定薬局を主導して地域医療に貢献することが求められる。

(西宮病院 島田 美輝 記)



2. 県立病院の経営状況

病院局経営課／副課長 瀧口 直彦

兵庫県の財政は阪神淡路大震災の影響が大きく、2008年の「新改革プラン」に基づく行財政構造改革に取り組んでいるが厳しい状況にある。この逆風の中、県立病院の整備計画は着実に進んでいるが、病院経営においては、費用に見合った収益の確保が必要であり、そのためには、人員確保や医療機器等の整備など収益予測に基づく計画的な投資が必要である。

薬剤部内での経営上の課題として、医師のタスクシフト/シェアが推進されている中、育休・産休による恒常的な人員不足をどう補うかが挙げられる。人員不足の対策としては、SPDへの業務の委託や会計年度事務職員の配置、病棟業務が可能な派遣薬剤師の活用、育

産休などによる非稼働スタッフを見越した正規薬剤師の採用強化などが挙げられる。

(西宮病院 乾 結萌子 記)



3. 薬剤部長会議について/各委員会の活動について

薬剤部長会議会長/がんセンター薬剤部長 福井 由美子

2024年4月より医師の時間外労働に対する上限規制が開始される。これに伴いタスクシフト/シェアが推進されており、薬剤部長会議では薬剤師のタスクシフトについて検討している。薬剤師の本来の業務は、持参薬の確認、患者の健康管理や服薬管理などの対人



業務であり、県立病院薬剤部では良質かつ適切な医療を効率的に提供するために、病院局と協同してタスクシフトが可能な業務を検討し、薬剤業務のスマート化を図っている。

業務標準化推進委員会では、共通マニュアルの作成や病院間の情報共有を円滑に行うためのネットワークの構築など、業務の質の向上・効率化に取り組んでいる。

リスク管理委員会では、R5年度の取り組みとしてヒヤリハット事例から全施設で再発防止策を講じることや、ダブルチェック機能が働かなかった原因の探究、イエローカード活用による自己分析とその対策を講じることなどを挙げている。

教育研修委員会では、県立病院薬剤師全体研修、階層別研修や専門薬剤師育成に向けた専門研修の企画・運営・評価を行っており、チーム医療・病棟薬剤業務において貢献できる薬剤師の育成に取り組んでいる。

(西宮病院 乾 結萌子 記)

4. 褥瘡発生とくすりの関係を考える～薬剤関連褥瘡を未然に防ぐために必要な知識～

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 高齢者薬学教育研修室長/溝神 文博

本講義では褥瘡発生の基本的知識とともに、令和4年度診療報酬改定に際して、従来の「褥瘡対策に関する診療計画書」に新たに追加された「薬学的管理に関する事項」について、皮膚褥瘡外用薬学会の見解の解説があった。その中で、薬の影響による活動性低下が原因となる薬剤誘因性褥瘡について紹介された。また仙骨部褥瘡、尾骨部褥瘡、腸骨部褥瘡、大転子部褥瘡、踵部褥瘡についての特徴や、薬剤誘発性褥瘡の好発部

位などについて学んだ。最後に、症例検討を交えて、薬剤起因性老年症候群とポリファーマシーへの対応についても学習した。

褥瘡対策の施設基準に薬剤師の連携と薬学的管理が必要となり、薬剤師に求められる褥瘡の知識も広がった。薬剤師は、外用薬の提案といった保存的治療だけでなく、常用薬の整理といった観点から褥瘡の原因に介入することが大切であることを学んだ。

(淡路医療センター 西村 紗耶子 記)



5. 臨床研究の進め方

京都大学医学部附属病院 薬剤部／中川 俊作

研修の前半では、臨床研究を実施していく上で必要な研究計画の作成や研究デザイン、結果の評価について



で説明があった。

臨床研究を始めるにあたり、事前に計画を立てることが重要である。その際、PICOを用いて疑問からリサーチクエスチョンへ具体化することが必要である。また、仮説を支持する結果が得られた場合も、真の差以外にバイアスや交絡因子といった誤差の可能性について考慮する必要があり、ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究といった研究デザインの設定が重要となる。さらに質の評価において結果の評価に影響する内的妥当性や一般化可能性に影響する外的妥当性を考慮する必要がある。

研修の後半では、実際に臨床研究論文が雑誌等に採用された2名の執筆者より研究デザインの設定、データ解析から論文採用までの具体的な体験談が紹介され、意見交換を行った。

(淡路医療センター 黒木 郁海 記)

階層別研修（4年目以降職員対象）

令和5年10月28日 兵庫県学校厚生会館（参加 39名）

1. 薬剤師のためのモダリティ（胸部X線、CT、心エコー、心電図）のみかた・考え方

社会医療法人三愛会 大分三愛メディカル病院薬剤部／課長 梶原 洋文

本講義では、薬剤師に不足していると言われている、X線画像・心電図等の読み解き方を学んだ。

X線画像では、胸水は肺下部が、肺水腫は肺血管周囲が白く映る。このような体内の水貯留の状態把握が利尿薬等の薬効評価に利用できる。

心電図は、教科書に載っているような典型的な波形を実際に目にすることは少なく、書物で学んだだけで

は、知識を臨床現場で活かすことは難しい。講義の中で、シミュレータで出力された波形から不整脈の病態を予測する演習を行ったことで、理解が難しかった心電図について、少し身近に感じることができた。

適切な病態把握には、モダリティの知識が重要だと実感できる講義であった。

(丹波医療センター 中山 奈美 記)



2. チーム医療における薬剤師の役割～周術期管理における薬剤師業務を中心に～

岡山大学病院薬剤部／外来薬剤業務管理室主任 猪田 宏美

本講義では、周術期管理における薬剤師業務・役割について説明があった。入院前の外来において多職種が予定手術の支援業務を行う中で、薬剤師の業務の順序は終盤であったが一番初めに行うよう改善した。薬剤師が薬物治療全体の把握や休薬指示を確認することで執刀医や麻酔科医へ情報提供ができ、患者説明後

の指示変更例が削減された。業務手順の変更等、従来業務の見直しも必要であることを再認識した。

グループワークでは、症例を用いて常用薬や検査値から術前における介入点や多職種と共有すべき情報を考察した。薬剤師として幅広い視点を身につけ、多角的にアプローチすることの重要性を学んだ。

(ひょうごこころの医療センター 玉置 尚 記)



3. 医療訴訟等の事例を踏まえた薬剤師の法的義務

中外合同法律事務所パートナー 薬事・ヘルスケア・医療グループ／代表 弁護士 赤羽根 秀宜

薬剤師が問われる法的責任には刑事責任、行政責任、民事責任がある。刑事責任は、業務上過失致死傷罪と

して罰金、禁錮、懲役の刑罰を受ける。患者死亡など社会的影響が大きい場合に問われる。行政責任は戒告、3年以内の業務停止、取り消しの処分がある。刑事責任で罰金以上の刑や薬事に関し犯罪又は不正の行為があった場合などに問われる。民事責任は、金銭支払義務が発生する。過失(調剤ミス)、因果関係、損害(健康被害)の3つの要件が満たす場合、患者に損害賠償請求権が発生する。この過失とは、不注意や怠慢ではなく、薬剤師としての義務違反を意味する。近年、薬剤師の業務が対人業務へと拡大している中、医療訴訟に関する知識を身につけることは自分の身を守るだけでなく、医療安全のためにも重要である。

(加古川医療センター 田中 拓可 記)



薬剤師専門研修

感染制御領域

令和5年11月22日 こども病院 参加9名

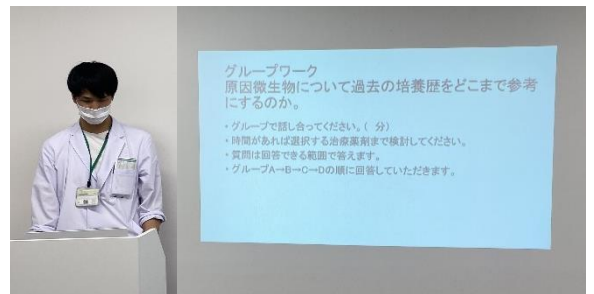
本研修では、①医師による講義「薬剤師のための感染症診療の原則」・症例検討「症例から学ぶ推しのAST的思考トレーニング」②検査技師による講義「細菌検査について」③薬剤師による講義「こども病院におけるAST活動について」「感染制御領域における資格取得に必要な知識と認定制度」が実施された。

①では、感染が疑われる際に注目すべき患者背景・検査値等の項目や、「感染臓器→微生物→抗菌薬」の順に考えるという原則を学んだ。また、症例検討を通して、起炎菌・臓器移行性・耐性獲得の可能性などを多角的に考慮した抗菌薬の選択方法を学んだ。

②では、血液培養が陽性となった際に行う検査の流れ、また、初期治療におけるグラム染色の有用性や代表的な細菌の画像所見を学んだ。

③では、こども病院におけるAST活動として、TDMマニュアルの整備やHART(兵庫県抗菌薬適正使用のための地域研修会)の開催、Global-PPS(グローバル時点有病率調査)への参画等の取り組み内容を知ることができた。また、資格取得に必要な条件や取得までの流れ、症例記載時の注意点等について学ぶことができた。

(尼崎総合医療センター 寺本 日路美 記)



がん・緩和領域

令和5年11月8日 Web研修 参加9名

本研修では、オンライン研修にて前半は悪性リンパ腫の病態・治療について、医師、薬剤師の視点から講義及び症例検討が行われた。また後半では、がん患者の緩和ケアに関する講義及び症例検討が実施された。

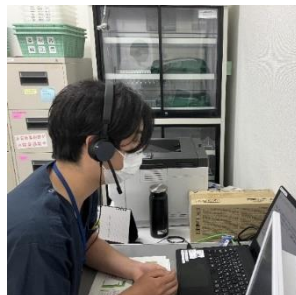
医師の講義では、悪性リンパ腫の疾患概念や薬物治療について幅広く学び、実践的な知識を得ることができた。

薬剤師の講義は、悪性リンパ腫の治療戦略や薬物治療の際に起こりうる副作用とその対策について、エビデンスとこれまでの経験を踏まえた内容であった。症例検討では、悪性リンパ腫の中でも頻度の高いDLBCLやFLに対する薬物療法を行う上での注意すべきポイント

について学習することができた。また、グループディスカッションによる意見交換を通して視野を広げることができた。

緩和ケアに関する講義では、がん疼痛に対する痛みのパターンに応じた鎮痛薬の選択や痛みに対する包括的な評価などについて学ぶことができた。また、症例検討では、痛みの性状や発症の時期から薬剤の選択について考察した。さらに、資格取得に向けた症例報告作成時の注意点などについても解説があり、意識を高めることができた。

(がんセンター 田中 将太 記)



県立10病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み(チーム医療、病院独自の取り組み等)、研修会を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質向上を図る取り組みを行いました。

1. 実地開催

術後疼痛管理チームラウンド		外来抗がん剤鑑査業務		Patient Flow Management(PFM)	
実施日	8月24日、31日	実施日	8月25日	実施日	8月29日
実施施設	尼崎	実施施設	尼崎	実施施設	尼崎
参加人数	4名(西宮、はり姫、こども)	参加人数	1名(淡路)	参加人数	1名(加古川)
緩和ケアチームラウンド		集中治療室での業務(見学)		褥瘡回診	
実施日	8月30日	実施日	8月31日	実施日	9月6日
実施施設	尼崎	実施施設	尼崎	実施施設	尼崎
参加人数	2名(はり姫・淡路)	参加人数	1名(こども)	参加人数	2名(西宮・がん)
認知症・せん妄ラウンド		集中治療室での業務(実務)		腎臓病教室	
実施日	10月3日	実施日	10月19日	実施日	7月27日
実施施設	尼崎	実施施設	尼崎	実施施設	加古川
参加人数	2名(加古川・丹波)	参加人数	1名(はり姫)	参加人数	1名(がん)
救命救急センターへの薬剤師の常駐		B型肝炎ウイルススクリーニング		ICT・ASTカンファレンス	
実施日	8月10日	実施日	8月16日	実施日	8月30日
実施施設	加古川	実施施設	はり姫	実施施設	はり姫
参加人数	1名(丹波)	参加人数	1名(がん)	参加人数	1名(淡路)
NSTラウンド・カンファレンス		心不全カンファレンス		病棟薬剤業務(精神疾患領域)	
実施日	8月31日	実施日	9月14日	実施日	9月14日
実施施設	はり姫	実施施設	はり姫	実施施設	こころ
参加人数	1名(こころ)	参加人数	1名(淡路)	参加人数	2名(加古川・淡路)
irAEチーム		外来化学療法患者への服薬指導、外来麻薬指導			
実施日	8月4日、9月1日	実施日	8月18日		
実施施設	がん	実施施設	がん		
参加人数	3名(西宮、はり姫、淡路)	参加人数	1名(丹波)		

2. オンライン開催

心臓病教室		抗がん剤調製業務		外来がん指導業務、抗がん剤指示書鑑査業務	
実施日	8月25日	実施日	8月25日	実施日	8月22日
実施施設	尼崎	実施施設	尼崎	実施施設	淡路
参加人数	2名(はり姫)	参加人数	2名(はり姫)	参加人数	3名(はり姫)

3. 研修会のWEB配信

大塚製薬工場勉強会		アレルギーとアナフィラキシー		抗がん剤使用中の制吐剤について	
実施日	11月14日	実施日	11月13日	実施日	12月6日
配信施設	はり姫	配信施設	はり姫	配信施設	丹波
参加施設	2施設(尼崎、こども)	参加施設	3施設(尼崎・丹波・こども)	参加施設	4施設(尼崎・西宮・はり姫・こども)
緩和ケアに使用する鎮痛剤について					
実施日	12月19日				
配信施設	尼崎				
参加施設	5施設(西宮・はり姫・丹波・こども・がん)				

病院名： 尼崎：尼崎総合医療センター 西宮：西宮病院 加古川：加古川医療センター はり姫：はりま姫路総合医療センター
 丹波：丹波医療センター 淡路：淡路医療センター こころ：ひょうごこころの医療センター こども：こども病院
 がん：がんセンター 粒子線：粒子線医療センター

書籍等出版物

期間：令和4年12月～令和5年11月

※メーカー作成の出版物（パンフレット、小冊子）を除く

薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2023年版

- ・外来化学療法における薬学的管理
(尼崎) 太田 あづさ

学会発表

期間：令和5年度発表分（発表予定を含む）

第11回日本くすりと糖尿病学会学術集会 (令和5年9月2日～3日)

- ・がん患者の血糖マネジメントを考える～薬剤師の立場から～
(がん) 六車 龍介

第18回兵庫県立病院学会 (令和5年9月9日)

- ・高齢がん患者への薬物療法に関する取り組みと薬薬連携
(尼崎) 太田 あづさ
- ・当院におけるアナモレリンの使用実態調査
(尼崎) 前田 和輝
- ・尼崎総合医療センターでの術後疼痛管理チームと薬剤師のかかわり
(尼崎) 生盛 春菜
- ・退院時薬剤情報連携加算算定促進へ向けた取り組み
(尼崎) 吉見 真太郎
- ・当院のポリコナゾール使用患者における視覚障害についての後方視的調査
(尼崎) 池村 理紗

- ・西宮病院におけるがん化学療法連携充実加算の取り組み
(西宮) 志原 未都菜
- ・抗菌薬の適正使用に向けて～救命救急センターにおける腎機能別投与量ガイドライン(抗菌薬・抗真菌薬)～
(加古川) 黒木 舞子
- ・当院における慢性心不全患者に対するサクビトリルバルサルタン使用状況について
(はり姫) 田原 由貴
- ・慢性心不全症例に対するイブラジン導入前後における循環器指標の変化と問題点
(はり姫) 東山 未来
- ・調剤自動化機器導入前後におけるエラー事例分析について
(はり姫) 山本 柚佳
- ・2点採血によるVCM-TDM解析ソフトの比較検討
(丹波) 齋藤 あゆみ
- ・ESBL産生菌菌血症に対する各抗菌薬の治療成績評価
(丹波) 足立 壮
- ・ヒヤリ・ハット未然防止への取り組み～リスク回避のために必要な情報とその伝え方の検討～
(淡路) 沼田 範子
- ・救急集中治療室に入室した患者の持参薬再開状況調査
(淡路) 山口 泰大
- ・クロザリル®療法における薬剤師の役割
(こころ) 高井 英里
- ・コロナ禍での県立病院薬剤部における教育研修
(こども) 河原 香織
- ・業務標準化推進委員会による県立病院薬剤部一般公開用ホームページリニューアル
(こども) 磯元 啓吾

- ・粉碎調剤における調剤方法の主薬含有量に与える影響について

(こども) 岡田 瑞希

- ・免疫チェックポイント阻害薬のマネジメントに関わる取り組みについて-irAE チームラウンドの活動-

(がん) 南 のどか

第 50 回日本小児臨床薬理学会学術集会

(令和 5 年 9 月 30 日~10 月 1 日)

- ・新生児離脱症候群 薬剤師の立場から、大阪急性期総合医療センター208 例での検討

(はり姫) 寺岡 知香

- ・小児集中治療室におけるバンコマイシン初期投与量の適正化の取り組み

(こども) 磯元 啓吾

- ・小児専門病院におけるレムデシビル投与による肝酵素上昇例の検討

(こども) 陣田 剛志

第 60 回日本糖尿病学会近畿地方会

第 59 回日本糖尿病協会近畿地方会

(令和 5 年 10 月 14 日)

- ・当院薬剤師における自己注射手技の取得状況について

(はり姫) 東 明里

第 70 回日本化学療法学会東日本支部総会

第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会合同学会

(令和 5 年 10 月 25 日~27 日)

- ・兵庫県立尼崎総合医療センターにおける MRSA 菌血症患者の 30 日死亡率と抗 MRSA 薬の使用量推移について

(尼崎) 藤井 恵太

- ・PAT を用いたプロトコル導入前後におけるバンコマイシンの有用性と投与量の比較検討

(はり姫) 井口 紘利

- ・小児集中治療室(PICU)におけるカルバペネム供給制限の影響

(こども) 藤田 愛美

第 33 回日本医療薬学会年会

(令和 5 年 11 月 3 日~5 日)

- ・シンポジウム 10 Complex case カンファレンス - 複雑な症例の薬物療法をプロフェッショナルな薬剤師と一緒に考えてみよう シンポジスト

(尼崎) 西海 一生

- ・診療報酬改定に伴う褥瘡対策への薬剤師の関わり

(加古川) 藤井 実穂

第 71 回日本化学療法学会西日本支部総会

第 93 回日本感染症学会西日本地方会学術集会合同学会

(令和 5 年 11 月 9 日~11 日)

- ・MEPM 出荷調整時の抗菌薬適正使用について

(丹波) 青井 直樹

第 13 回九州山口薬学会

ファーマシューティカルケアシンポジウム

(令和 6 年 1 月 6 日~7 日)

- ・がん患者の血糖マネジメントを考える

(がん) 六車 龍介

第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会

~サステナブルな栄養管理を目指して! ~

(令和 6 年 1 月 26 日~28 日)

- ・栄養状態に着目した糖尿病薬物治療

(がん) 六車 龍介

第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会

(令和 6 年 1 月 27 日~28 日)

※レジデント

- ・当院でのジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用実態調査

(尼崎) ※伊藤 史穂

- ・当院におけるベルイシグアトの使用実態調査

(尼崎) ※杉森 菜々子

- ・薬学生実務実習の充実に向けた取り組み

(尼崎) ※井上 翔太

- ・兵庫県立西宮病院の大腿骨近位部骨折患者における骨粗鬆症薬の継続率について

(西宮) 乾 結萌子

- ・肝臓病教室での薬剤師による新たな取り組み

(加古川) 山田 直輝

- ・緊急入院患者の持参薬鑑別における業務効率化に向けた当院の取り組み

(はり姫) 安野 理

- ・当院の患者支援センターにおける薬剤師の休業指示確認に関する取り組みについて

(はり姫) 板持 美憂

- ・当院における慢性心不全患者に対するベリキューボ錠® (ベルイシグアト) 使用状況について

(はり姫) ※手操 里奈

- ・兵庫県立丹波医療センターにおけるホスネツピタントの使用実態調査

(丹波) 池田 真由美

- ・下肢人工関節置換術後患者に対する DVT 予防のエドキサバンの調査

(淡路) 坂田 采弥香

- ・処方チェックシステム導入による腎排泄型薬剤の投与量適正化について

(淡路) 黒木 郁海

- ・小児患者における施設間薬剤情報提供書に関するアンケート調査と様式改訂について

(こども) 森 くるみ

- ・兵庫県立こども病院におけるワルファリン使用患者の抗菌薬投与による PT-INR 値への影響

(こども) 澁谷 菜月

- ・チサゲンレクルユーセルの副作用マネジメントにおけるモニタリングシートの作成

(こども) ※月嶋 珠花

- ・当院での新生児集中治療室における薬剤師の関わり

(こども) ※中本 聖華

- ・美容外来における薬剤の適正在庫管理

(がん) 長尾 雅代

- ・婦人科領域の化学放射線療法における制吐剤の使用状況～ガイドラインに基づいた悪心・嘔吐に対するフローチャート作成前後の比較～

(がん) 清水 麻由

- ・当院におけるセミプリマブの使用成績調査

(がん) ※船越 沙紗

第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会

(令和 6 年 2 月 22 日～2 月 24 日)

- ・「irAE チームラウンド」による irAE 発生状況の調査および治療経過の分析

(がん) 南 のどか

日本臨床腫瘍学会学術大会 2024

(令和 6 年 3 月 2 日～3 日)

- ・「レジメン管理業務省力化に向けた取り組み」

(西宮) 伊勢原 祐子

- ・「免疫チェックポイント阻害薬使用患者におけるオピオイド製剤の鎮痛効果に与える影響に関する調査」

(西宮) 岡田 悠加

- ・当院の薬薬連携、病診連携への取り組み

(加古川) 大谷 祐子

- ・ホスネツピタント使用患者における嘔吐完全抑制割合 (CR 率) の実態調査

(はり姫) 三柳 心路

第 51 回日本集中治療医学会学術集会

(令和 6 年 3 月 14 日～16 日)

- ・兵庫県立尼崎総合医療センターのオンデキサ®のセット処方の有効性について

(尼崎) 直 朋弘

- ・「ホメピゾール迅速確保に向けた供給体制の一考察 (Securing a system for the rapid supply of fomepizole)」

(西宮) 足立 萌

名称・認定団体等

名称・認定団体等	認定団体	尼崎総合医療センター	西宮病院	加古川医療センター	はりま姫路総合医療センター	丹波医療センター	淡路医療センター	ひょうごこころの医療センター	こども病院	がんセンター	粒子線医療センター	合計
がん指導薬剤師	日本医療薬学会									1		1
がん専門薬剤師	日本医療薬学会									1		1
がん薬物療法専門薬剤師	日本病院薬剤師会								1			1
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会								1	1		2
感染制御専門薬剤師	日本病院薬剤師会				1							1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会				1	1			1			3
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	1			2	2					2	7
栄養サポートチーム専門療法士	日本臨床栄養代謝学会	6	4	2	3		1		1	5		22
緩和医療暫定指導薬剤師	日本緩和医療薬学会	1										1
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	2	1					1		2		6
医療薬学専門薬剤師	日本医療薬学会		1	1	2				1			5
日病薬病院薬学認定薬剤師	日本病院薬剤師会	18	6	4	13	9	7	3	3	11	2	76
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1	1	1	3					3		9
認定実務実習指導薬剤師	薬学教育協議会	9	4	5	7	4	1	1	6	11		48
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会				1			1	1	1		4
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	2			1	2			3			8
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター									1		1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	1	1	1	1							4
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	3		1	5	1	1	1	3	3		18
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	1		1	3				1			6
スポーツファーマシスト	日本アンチ・ドーピング機構		1									1
外来がん治療専門薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会	2	3			1	1			1		8
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会			1								1
糖尿病薬物療法認定薬剤師	日本くすりと糖尿病学会									1		1
骨粗鬆症マネージャー	日本骨粗鬆症学会						1		1			2
NST 専門療法士実地修練	日本臨床栄養代謝学会認定教育施設	2	5	2	3	3	4	2	2		1	24
禁煙指導認定薬剤師	兵庫県薬剤師会	1										1
周術期管理チーム認定薬剤師	日本麻酔科学会	3	2									5
術後疼痛管理研修	日本麻酔科学会	4		1					1	2		8
肝炎医療コーディネーター	肝炎情報センター	10		3					1			14
合計		67	29	23	46	23	16	9	27	46	3	289

令和5年度教育研修委員会

編集後記

COVID-19 の位置付けが2類相当から5類感染症へ変更となり少しずつ元の日常へと戻りつつある中、プロ野球での関西球団同士の日本シリーズ、そして阪神タイガースの38年ぶりの日本一、また、ヴィッセル神戸のクラブ発足29年目での初優勝と、大いに関西が盛り上がりました。

教育研修委員会では約4年ぶりに現地での全体研修の開催、また、コロナ禍で活用したオンライン研修会の経験を活かし、「オンライン相互利用」を試みる等、柔軟に取り組むことができたのではないかと思います。

最後になりましたが、医療を取り巻く環境はめまぐるしく変化しますが、教育研修委員会では今後も最前線で活躍できる薬剤師の育成を目指して、有意義な研修の実施に努めていきたいと思ひます。



担当副会長	石田 達彦		
担当部長	横田 聖子	本間 久美子	
委員長	寺崎 展幸		
副委員長	河原 香織		
委員	奥貞 佳世子	丸本 一希	
	馬場 奈津美	福山 裕季子	
	山口 泰大	南野 希	
	山内 紗綾香	稲澤 小百合	